

第 25 回スキルアップセミナー in 東京

開催報告



開催日時：H28年2月21日（日）9時20分～15時40分までの実質6時間20分（昼休憩50分）

開催場所：ラックヘルスケア株式会社 東京オフィス

主催：NPO法人 口から食べる幸せを守る会*

共催：ラックヘルスケア株式会社

後援：株式会社クリニコ 日清オイリオグループ株式会社 渡辺商事株式会社 株式会社大塚製薬工場

<敬称略>

開催目的

- ◇ 包括的な食支援に関する知識や技術を得ることができる。
- ◇ 認知機能の低下がある人に対する、基本的な食事介助技術の知識・技術を学ぶ。
- ◇ 食事介助が困難とされる場合の演習を通し、根拠ある介入方法のヒントを得、実践に繋げることができる。
- ◇ グループ毎のレディネスに沿った演習を通して、個々の受講目的に沿ったスキルアップが図れ、自施設においての指導に繋げることができる。

KTSM 実技認定者（講師・アドバイザー）一覧

<敬称略>

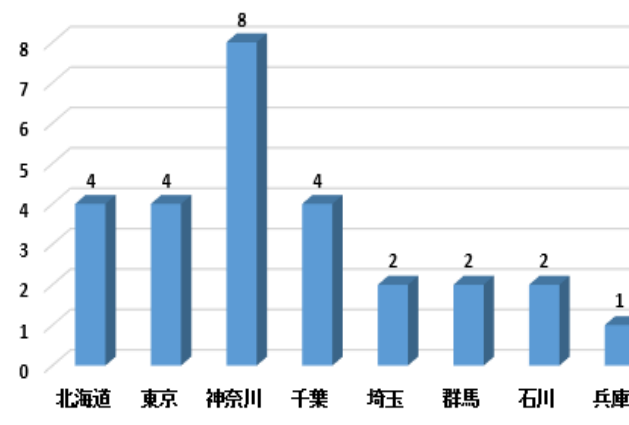
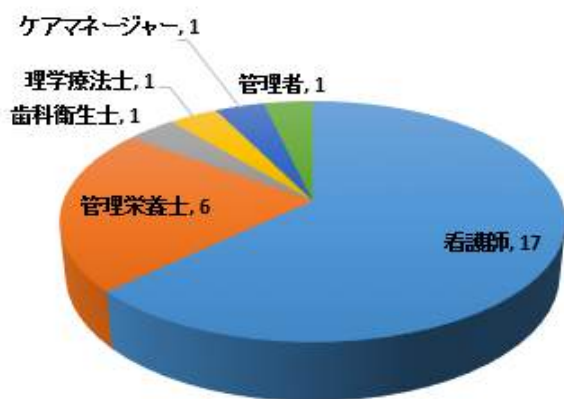
| 氏名 | 所属 | 職種（摂食嚥下に関する資格） |
|-------|--|---|
| 小山珠美 | NPO 法人口から食べる幸せを守る会 理事長 | 看護師 日本摂食嚥下リハビリテーション 学会認定士 KTSM 実技認定者 |
| 竹市美加 | NPO 法人口から食べる幸せを守る会副理 事長 ナチュラルスマイル西宮北口歯科 (兵庫) | 摂食・嚥下障害看護認定看護師 KTSM 実技認定者 |
| 金 志純 | 社会福祉法人鶴風会 東京小児療育病院 | 摂食・嚥下障害看護認定看護師 KTSM 実技認定者 |
| 甲斐明美 | 社会医療法人財団 石心会 川崎幸病院 | 摂食・嚥下障害看護認定看護師 KTSM 実技認定者 |
| 黄金井 裕 | NPO 法人口から食べる幸せを守る会理事 日本医科大学多摩永山病院 | 言語聴覚士 日本摂食嚥下リハ学会認定士 KTSM 実技認定者 |
| 上野美幸 | 山梨市立牧丘病院（山梨） | 看護師 KTSM 実技認定者 |
| 砂山明子 | 都立駒込病院 | 摂食・嚥下障害看護認定看護師 KTSM 実技認定者 |

セミナーサポート一覧

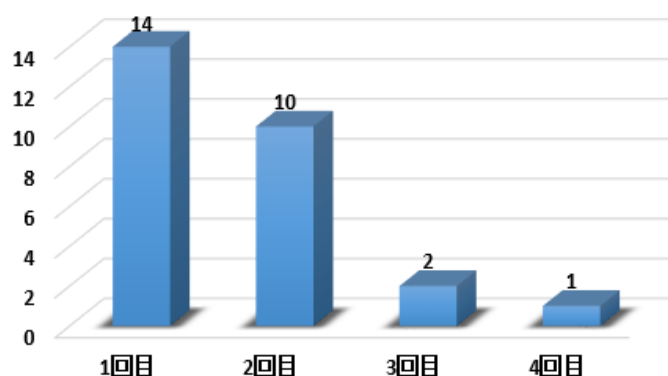
| 氏名 | 所属 | 職種（摂食嚥下に関する資格） |
|-------|-----------------------------------|----------------------|
| 大石朋子 | 神奈川県立保健福祉大学 | 看護大学教員 KTSM 実技認定者 |
| 大谷愛子 | 医療法人 マイスター アペックスメディカルデンタルクリニック | 歯科医師 KTSM 実技認定者 |
| 山下ゆかり | 医療法人社団永研会 ちとせデンタルクリニック | 歯科衛生士 KTSM 実技認定者 |
| 渡部愛弓 | 日本医科大学多摩永山病院 | 摂食・嚥下障害看護認定看護師 |
| 望月優子 | 塩山市民病院（山梨） | 看護師 |
| 中村里花 | 塩山市民病院（山梨） | 看護師 |
| 渡辺珠美 | 塩山市民病院（山梨） | 看護師 |
| 榎本淳子 | 玉名医療センター（熊本） | 社会福祉士 KTSM 実技認定者 |
| 福岡碧 | NPO 法人口から食べる幸せを守る会 | 事務員 |
| 古屋聡 | 山梨市立牧丘病院 NPO 法人口から食べる幸せを守る会理事 | 医師 病院長 |

アンケート集計結果（参加者 27 名 回収率 100%）

Q1 職種と勤務先の都道府県



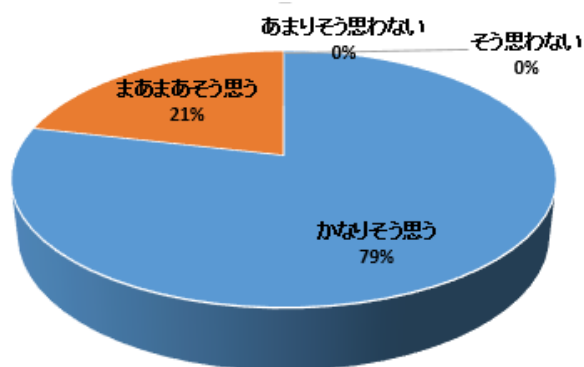
Q2 KTSM 実技セミナー参加回数と参加理由



- ◇ 食べる機能を引き出す際、姿勢の管理から介入できる部分を知りたかったことと、食事介助の具体的方法と注意点について知りたかったため
- ◇ 食事介助の基本をきちんと知っていくため
- ◇ 基礎編受講したが、自分の介助の間違いに気づかされました。もっと知識を得て技術を向上させたいと思ったから
- ◇ 基礎に続いて参加
- ◇ 日頃の食事介助技術と知識の確認のため
- ◇ 経管栄養から経口摂取に移行する時の評価方法を学びたかった
- ◇ 自分の技術確認とスタッフ指導、不必要な禁食が少ない病院にしたいので
- ◇ 書籍を読み実施しても上手くできず、実技セミナーを受けようと思い参加しました
- ◇ 覚醒不良・口唇閉鎖不全、口腔内への貯留、開眼維持困難への実践介入スキルの確認と不足箇所の再習得
- ◇ 高齢者やむせ込みがある患者さんに対して、誤嚥性肺炎を恐れて、患者さんは食べたい気持ちがあるのに食事をやめてしまうことが今までありました。しかし、小山さんが患者さんに関わる姿を見て適切なアセスメント技術があれば患者さんの「食べたい」という気持ちを支えられると思い参加させて頂きました。
- ◇ 食事介助の技術を身につけたい
- ◇ 基礎から技術を学び、実践の現場で生かせるスキルを身につけたいと思い参加させて頂きました。包括的スキルバランスチャートの活用について学びを深めたいと思います
- ◇ 既に3回の参加をしていますが、実技的にまだまだであり、上手に食べさせることができない場面があるため。また、自分のスキルアップと何より自信をつけるため
- ◇ 実技を学べる研修なので、1回学んだだけでは忘れてしまうため
- ◇ 嚥下障害者の技術（スキルアップ）を会得する
- ◇ 医師に紹介され実践的な技術を実演で学びたいと思った
- ◇ ST、耳鼻科医師が食べられないと判断し、そのまま絶食となり食べる為の介入も途絶えてしまう患者がおります。自分の知識技術が曖昧な部分をはっきりさせ、そのような方々への介入方法を、自信を持って伝えたいと思い参加しました。
- ◇ 食事支援の評価を正確にできるようになりたいため
- ◇ 施設として取り組みを行う為の準備段階として、知識とスキルを得て施設職員に伝えられる人材となる為
- ◇ 介助力を高めるために参加しました。管理栄養士としての力が発揮できるよう技術を身につけたいと思いました。

- ✧ 基本的な食事介助の知識を学ぶこと。またそれを実践できるようになること
- ✧ 本当に食べやすい姿勢や食事介助、最後まで口から食べられることを支援できる技術を学びたくてきました
- ✧ 在宅の栄養指導する際に食事介助スキルが必要なので
- ✧ 5月の函館でのセミナーのため、学ばせて頂きたく参加しました
- ✧ 函館開催のための視察
- ✧ 職場に嚥下に詳しい人間が他にいない為、看護師から良く相談されるので、何か役に立てればと思いました。嚥下だけでなく、全身状態から考えていく見方が良さそうだと感じた為
- ✧ 前回のセミナーでの実習が、意識して現場で行えることが実感できたので、もっとしっかりしたものを身につけたいと思い参加しました

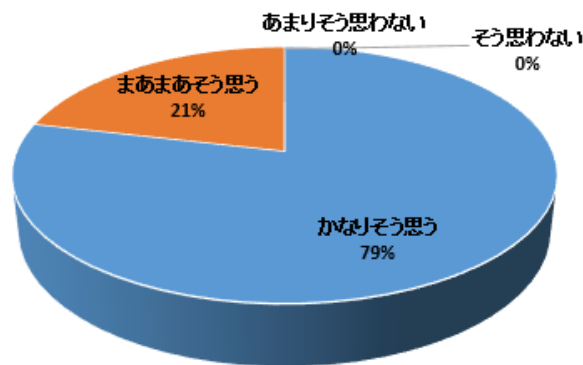
Q3 セミナーはスキルアップにつながったと思うか



- ✧ 実際に行ってみると難しい点が多かったが、スクリーニング評価の内容を知ることができてよかった
- ✧ 当たり前の動きを他者が行うことは大変であると知った。鼻の下、舌と平行、奥へ、視覚情報、ポジショニング
- ✧ まだまだ技術というところまではいっていない
- ✧ これまでの技術よりはましになったと思うが、まだ体得できていないので、反復学習をしないとイケないと思う
- ✧ 普段やっているつもり、わかっているつもりでしたが、勉強不足な部分があり反省しました。スプーン操作や食器の2個持ちなど、円滑にできるように介助技術のスキルアップにつながったと思います。
- ✧ 事例に合わせた介助方法をアドバイス頂いた、実際に自分で体験することで課題がみえてきたから
- ✧ 自分のくせ、曖昧なところが明確になった
- ✧ 実践したことで知識として持っていたことを確認することができてよかったです
- ✧ 正しい技術とその根拠を確認しながら受講できた
- ✧ 実技が主で、グループに2人先生がついてくれるので、タイムリーに質問や実技指導が受けられた
- ✧ 実践してみてもわかり、患者様の思いもわかりました。介助者によって患者さまが食べることができるということもわかった
- ✧ 困難場面でのアプローチについてかなり多くの学びがありました
- ✧ 体位を整えることが良質な摂食に繋がることを自身の体験を通して感じる事ができた

- ✧ 知識としてある知っていることを実際に行い、使える技術になったと思います
- ✧ 本には書いていないことを先生方から教えて頂いたのがとてもよかった
- ✧ 朝のオリエンテーションの時よりも疑問が減りました。根拠が分かったので自信をもって説明ができる気がします。残りの疑問は今日得た知識を使って自分で考えてみようと思える程になりました
- ✧ どうして食べられないのかを患者側にばかり見つけだそうとしてしまっていたが、介助側がテーブルの位置、肘の高さを注意して調整して上げれば食べれることがある、そういう技術をきちんと身につけたいと思う
- ✧ 理解できていないことの確認、また患者役をすることで何か重要なことなのかということを理解することができたと思う
- ✧ 自分が患者さん側を体験することで、ちょっとしたスプーンの角度、食べものの見せ方などとても勉強になりました。バスタオル1枚で変る安楽な姿勢、介助のペースが思ったより早いことなど驚きました。
- ✧ 本を読んで出来そうな気がしていたが、実際にやってみると難しかった。患者さんの気持ちを考えながら介助する大切さを学びました
- ✧ 自分で食事をする時の当たり前の動作を人の介助をするという事がすごく細やかな心配りが必要なのだという事に感動しました。
- ✧ まだまだ知識不足ではありますが、口から食べることの重要性を理解することができ、そのためにどんな支援をしていけばよいかを気付けた。
- ✧ 自分自身は未熟ですがスキルアップになったと思います

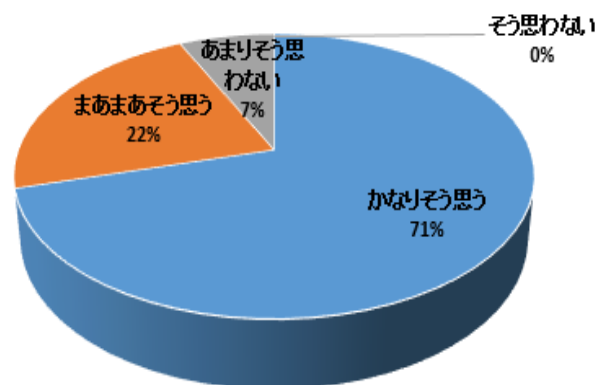
Q4 今後の実践の場面で活用することができるか



- ✧ ポジショニング、介助の仕方、器具の使い方等
- ✧ 各評価からのステップアップ時の関わり方が参考になった。病棟勤務で日々の患者さんの様子を把握し安心して食べられることに関わっていきたい
- ✧ スタッフから「食事介助がこわい」という声が聞かれたため、技術・知識は明日からの食事介助時に伝えていきたいと思う
- ✧ ベッドサイドでの嚥下訓練が活用できる
- ✧ 口唇閉鎖が不十分な方へのアプローチ方法の実践ができて、適切な介助方法が分かった
- ✧ KT バランスチャートで強みや補うべきところを可視化することで、具体的な援助を明らかにできると思う
- ✧ 施設に入所されている左麻痺で、上体が前傾しやすい方を想定して実際にポジショニングをして頂きました。明日すぐにもその方の姿勢を見直します！

- ✧ 日々の臨床、スタッフ指導
- ✧ 評価を ST 任せにしていたが、整形の患者さんで ST 処方のでいていない方の評価を行うことができるのではないかと少し自信ができました。
- ✧ 食事場面、スクリーニング、普段の生活の場でのポジショニング
- ✧ 高齢者や認知症の方が多いので、明日から実践できそうです。閉口困難な方にも実践してみます
- ✧ 水のみテスト、フードテスト、ポジショニング、評価基準の見方。課題のヒントや答えが分かりましたが、現場でどう浸透させチームで実行していくかは別の課題があります。(マンパワー不足、意識の温度差 等)
- ✧ 実際の食事介助の中で姿勢の保持やスプーンの運び方など学んだことを生かして行っていきたい。KT バランスチャートによる評価についてももっとしっかりと勉強して、栄養ケアマネージメントに取り入れていきたい
- ✧ ポジショニング、患者の見える位置に食べものをおく、口腔内環境を整える、テスト実施、口唇閉鎖
- ✧ 在宅での家族などの介護者の指導場面
- ✧ 自分の周辺に嚥下のことがわかる人間が皆無だった為、これまでは自分で調べるなど工夫して半信半疑のまま評価・訓練を行ってきた。今回先生方に色々教えて頂き、それらが概ね間違っていなかったことを確認できたので、今までよりも自信を持って介入できそうです。
- ✧ 日常の支援を再度評価することにより、口から食べるのが楽しくなるようになってほしいのでやっていきたい
- ✧ 介助のいろいろな場面のやり方が活用できると思いますし、そうやっていきます
- ✧ 自分が介助できる場面はあまりありませんが、介助されるご家族や介護員さんにアドバイスできれと思いました
- ✧ PEG 利用者を受け入れ、経口摂取に向けた取り組みを行うことになった場合。日々の食事介助、寝たきりの人へのポジショニング。
- ✧ 安楽なポジショニング調整により患者さんのよりよい能力を引き出すことに繋がると思う
- ✧ ベッド上の姿勢管理については、すぐに実行に移せると思います。実際の介助方法については、基本に注意しながら経験していきたいと思います
- ✧ 指導が細やかで分かり易かったです
- ✧ 実際に食べられない患者さんがいた場合できるかはわからない

Q5 自施設でこのようなセミナーを企画して行おうと思うか



- ✧ まだ実力がともなわないので無理ですが、実力がついた時には企画したいと思います
- ✧ 地域の方々に食べることの大切さ専門職に関しては研修をお願いできればと思います。勤務する病院に関しては是非ともいらして頂きたいですが、企画してくださる仲間を作ってからになるかと思う。今度セミナーに出席してもらいます。
- ✧ 栄養科、リハ科と協働して勉強会の企画を考えたいと思います。
- ✧ スクリーニングの評価を企画してみんなができるようにしたい
- ✧ ポジショニング方法の不十分な部分を院内でも共有していきたい
- ✧ 病院に2台のベッドが使用できるので、少人数の研修を行おうと思います
- ✧ 介護スタッフ、ナース向けの研修を年間計画で行う予定です。3年以内に摂食嚥下に強い施設になりたい
- ✧ 4月の新人研修、まずは今の介助方法、具体的に体験してもらう
- ✧ 摂食嚥下委員会から始めて、病院全体で行いたいと考えています
- ✧ 4月の新人研修と、4月に摂食嚥下委員会で4人で伝達講習をする予定です
- ✧ 実践したいが、まだまだ未熟なので、セミナーがあれば参加したい
- ✧ ポジショニングについて
- ✧ 栄養士1人では他職種を納得させるのは難しいため、他職種にもこういう研修への参加を促したいと思います
- ✧ 嚥下プロジェクトがあるので、一旦そちらに報告して病棟で一つずつできるようにしていきたい
- ✧ 技術、知識を体得できれば可能と思う
- ✧ 5月7日にまたよろしくお願い致します
- ✧ チャートを活用して病棟に取り入れるようにしていきたい
- ✧ 一般スタッフにこそ口から食べることのスキルを身につけてほしい。包括的な支援技術について企画していきたい
- ✧ 自分が未熟なので、今は無理だと思う
- ✧ 地域の栄養士の研究会でできたらよいと思います
- ✧ まだまだ実力不足なので、もっと経験をつんで後輩に伝えていきたと思います。

Q6 今後のセミナーで取り上げてもらいたいこと

- ✧ またこのような実技セミナーを宜しくお願いします
- ✧ 呼吸管理、栄養管理
- ✧ 空間無視の食事介助の方法
- ✧ 施設にスタッフ皆さんにお越し頂き、施設丸ごとの職員全員を直接ご指導頂きたいです
- ✧ 今の内容で、症例を多く取り入れてもらいたい
- ✧ ポジショニングが効果的にできる方法
- ✧ 評価についてもっと詳しく理論を教えて頂けると助かります。正しい介入には評価が重要と考えています。
- ✧ やはり実践、技術をもっとやりたいです
- ✧ 認知症の方への食事介助実践をもう少し深く知りたかったです
- ✧ 重症心身障害児への支援技術について、神経難病の方への支援技術について
- ✧ 本日の内容がとてもよかったです
- ✧ 初心者向けに実技セミナーを沢山お願いいたします

セミナー風景

今回は KTSM 理事長 小山珠美の取材で、『NHK プロフェッショナル 仕事の流儀』の撮影がはまりました！放映は4月下旬から5月上旬の予定です。

スタートの講義から集中！



アドバイザーも受講生も
真剣勝負！



楽しく学ぶことも大切です



演習風景も撮影しました





受講生の皆さま、スタッフの皆さま、
NHKプロフェッショナルの撮影部の皆さま、
ご参加・ご尽力ありがとうございました！